

< オリンピック・ムーブメント事業 >

JOCオリンピック教室

実施報告書

宮城県 気仙沼市立大谷中学校

「オリンピック教室」の実施にあたって

平成21年4月の学習指導要領から、中学校「保健体育 体育分野」及び高等学校「科目体育」における「体育理論」の領域で、文化としてのスポーツやオリンピック・ムーブメントの意義を学ぶことが示されました。中学校3年生では、「オリンピックや他の国際的なスポーツ大会等は、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしている」現状を通して、オリンピックの意義を学習することになっています。そこで、JOCでは、中学校3年生の体育理論の学習に先がけ、その内容を事前に啓発する目的で中学校2年生を対象に、平成23年度から授業形式で行う「オリンピック教室」を実施してきました。

近代オリンピックの創始者ピエール・ド・クーベルタンは、人間本来の資質を高めるために、スポーツと文化と教育の側面を持つオリンピックの価値を広めることが相応しいと考え、オリンピック・ムーブメントを推進してきました。JOCもこの価値を若い世代に語り継ぐことは、極めて重要で大切な活動と考えております。日本代表としてオリンピックに出場した選手（オリンピック）は、その栄誉を自覚し、競技面だけでなく社会生活の上でも、模範となる行動が求められますが、オリンピックがその価値を直接生徒に伝えることで、日頃の授業では味わうことの出来ない感動が生まれることが期待されます。

「オリンピック教室」の授業では、教師役のオリンピックが、オリンピック大会出場に至るまで、あるいは、実際にオリンピック大会に出場して得た貴重な経験等を通して、「エクセレンス」、「フレンドシップ」、「リスペクト」、「努力から得られる喜び」、「フェアプレー」、「他者への敬意」といったオリンピックの価値（バリュー）等を伝えます。同時に、この価値がオリンピックに出場した選手だけのものではなく、多くの人々が共有し日常生活にも活かすことのできるものであること、さらに、こうした考え方があるからこそオリンピックに価値があることを生徒自身が学ぶこともねらいとしております。

平成29年3月公示の新学習指導要領では、新しい時代に求められる資質や能力を子供たちに育むために、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業の工夫や改善が求められています。「オリンピック教室」でのふれあいの中での学びが、教科の枠を越え、これからの社会や人生に活かせる資質や能力を育む一助になることを期待しております。また、この授業を通して、生徒の皆さんが、運動やスポーツが好きになり、生涯にわたり豊かなスポーツライフの実現につながることも願っています。

令和7年4月

公益財団法人 日本オリンピック委員会

- 目的： オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）が教師役となり、
オリンピック自身の様々な経験を通して
「オリンピズム」や「オリンピックの価値」等を伝えると同時に、
この価値はオリンピックだけのものではなく、多くの人々が共有し、
日常生活にも活かすことの出来るものであることを授業を通して学習してもらう。
- 事業名： JOCオリンピック教室
- 主催： 公益財団法人日本オリンピック委員会(JOC)
- 後援： スポーツ庁
- 協力： 公益財団法人JKA、開催地自治体及び同教育委員会
- 対象： 中学校2年生
- 講師： オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）※派遣オリンピックはJOCが選定
- 期間： 2025年4月～2026年3月 ※原則、平日開催
- 実施校数： 80校程度
- 実施方法： クラス単位を基本とし、2コマで1セットの授業

1コマ目 運動の時間 / 50分

身体を動かしながら生徒との距離を縮め、
チームワーク、フェアプレー、身体を動かす
ことの楽しさ等を感じてもらいます。



2コマ目 座学の時間 / 50分

競技者人生を振り返り、自身が感じた
オリンピックの価値を生徒に伝え、
オリンピックをより身近に感じてもらいます。



1コマ目

運動の時間 / 50分

※実施校の時間割に準じて対応いたします。

オリンピックの専門競技の技術指導(=スポーツ教室)ではなく、
運動が苦手な生徒も参加できるように工夫されたもの

挨拶(5分)

準備体操(10分)

主運動(30分)

まとめ(5分)



自己紹介
学習内容の確認



準備体操



主運動
(作戦タイム等を設け、
生徒が考える機会を作る)



運動の時間のまとめ

2コマ目

座学の時間 / 50分

※実施校の時間割に準じて対応いたします。

国際オリンピック委員会(IOC)が推進する「オリンピックの価値」等を、オリンピックがオリンピック競技大会出場に至るまで、あるいは実際にオリンピック競技大会に出場した経験等を通して、分かり易く伝えると同時に、生徒自身が自分ごととして捉え、今後に活かせるような学習内容

挨拶・自己紹介(10分)

オリンピックの価値を伝える(10分)

グループワーク(20分)

まとめ(10分)



写真・映像等を使用
した自己紹介
学習内容の確認



オリンピック自身の
経験に基づく「オリ
ンピックの価値」等
を伝える



個人またはグループ
ワークで話し合った
内容を発表



全体のまとめ
記念撮影(クラス写真)

※時間は目安です。

※内容はオリンピックによって変動する場合があります。

●時間割について

- ・1クラスにつき、運動の時間+座学の時間の順に、2時間連続で実施します。
- ・1コマ目の運動の時間は体育館で、2コマ目の座学の時間は当該クラスの教室で行います。
- ・原則1クラスの場合は3-4時限目、2クラスの場合は3-6時限目、3クラスの場合は1-6時限目の調整となります。
- ・1日に実施できるクラス数は最大3クラスまでです。4クラス以上実施する場合は2日間以上の調整となります。
- ・同じ時間に複数クラスを実施することはできません。

- オリンピック：三宮 恵利子 先生（スケート／スピードスケート）
 【出場オリンピック／長野1998冬季大会、ソルトレークシティー2002冬季大会】
- 期 日：2025年9月19日(金)
 ■ク ラ ス：2年1組／運動の時間

○自己紹介 ～ 授業の目的確認 ～ 準備体操



スピードスケート競技で2大会の冬季オリンピックに出場したと自己紹介。運動と座学の時間を通してオリンピックバリューを学び、3つの価値はオリンピック選手だけではなく、皆にも当てはまることが沢山あることを知ってほしい。運動の時間は、どのような行動がこの3つに当てはまるのかを考えながら楽しく取り組んでほしい。準備体操後、体を使ったじゃんけんを実施。1回目は先生に勝つ、2回目は負けるが勝ちで行く。3回目まで行い、最後は勝ち残った生徒を拍手で称えた。

○主運動 等



主運動は、滑走リレーを実施(全3回)。班毎に分かれ、片足にモップシューズを履き、スケートのように滑りながら、折り返し地点を回って戻る。次走者にバトンを渡して、最終走者が戻り全員が座った時点でゴールとし、タイムと着順を競う。各班で練習する時間を設けた後、ゴートウザースタート、レディという、スピードスケート競技で実際に行われるスタートコールを合図とし実施。途中作戦タイムを設け、タイムを縮める工夫を話し合い、2回目以降は目標タイムを決めて取り組む。



滑走リレーで工夫したことを各班に聞くと、足の速い人の走順を工夫した、カーブを小回りで回ることを意識した、前回より少しでも速く楽しく滑る等と答える。皆が話を良く聞き、オリンピックバリューを理解して取り組んでいて素晴らしかった。次の座学の時間では、オリンピックバリューについて詳しく説明し、運動の時間を振り返りながら一緒に考える時間にしたい。最後に、せっかくなので体育館を綺麗に掃除しよう話し、全員モップシューズを両足に履いて掃除しながら歩いて、授業終了。

- オリンピック：三宮 恵利子 先生（スケート／スピードスケート）
 【出場オリンピック／長野1998冬季大会、ソルトレークシティー2002冬季大会】
- 期 日：2025年9月19日(金)
- ク ラ ス：2年1組／座学の時間

○自己紹介 ～ 授業の目的確認 ～ オリンピックの価値を伝える



長野1998、ソルトレークシティー2002冬季大会に、スケートのスピードスケート競技で出場したと映像を見ながら自己紹介。2002年の開会式では旗手として選手団を先導した。オリンピックシンボルの5つの輪は、世界の5大陸を表し、背景の白色を合わせた6色で世界中の国旗が描ける。近代オリンピックは、戦争のない平和な世界を願い開催されたと話す。練習は辛かったが、ライバルでもある仲間が存在が自分を強くしてくれた。引退した今でも一緒に仕事をする大切な仲間である。

○個人ワーク ～ グループワーク 等



発問：運動の時間に頑張ったことや良かったこと、考えたり工夫したこと等を、オリンピックバリューに結び付けて考えよう。

発表：エクセレンス：「楽しんで取り組む」「目標に向けてベストを尽くす」「全力で取り組む」「目標を立て努力する」等
 フレンドシップ：「アドバイスをし合う」「応援する」「仲間とハイタッチをする」「チームで団結して協力する」等
 リスペクト：「相手チームの良いところを取り入れる」「他のチームも応援する」等



グループワークで皆が発表したように、目標に向かって努力する、全力を出す、皆で楽しむ、相手チームの良いところを取り入れる、これらは全てオリンピックバリューに当てはまり、運動だけでなく、皆の学校生活でも活かせることなので、合唱祭でもオリンピックバリューを活かし、楽しみながら取り組んでほしい。ありがとうは自分が1番好きな言葉であり、凄いパワーを持っているので、皆も友達や家族等、誰にでも良いので、1日1回ありがとうと言い続けてほしいと話し、授業終了。

■集合写真

・2年1組



■記念品贈呈

・2年1組



■修了証贈呈

